

より魅力ある刈谷

～住みたい、住み続けたい刈谷市を目指して、

◆市民文教委員会（10月11日～13日）

- ※岩手県紫波町 オガールプロジェクトにおける図書館の役割について
- 千葉県鎌ヶ谷市 子育て支援アプリについて
- 千葉県君津市 学校再編・小中一貫教育について 観光施策について

◆建設委員会（10月4日～6日）

- 栃木県下野市 広域連携によるデマンド交通の相互利用について
- 東京都西東京市 東伏見駅周辺のまちづくりについて
- ※埼玉県朝霞市 官民連携まちなか再生推進事業について

オガールプロジェクトにおける図書館の役割
— 公民連携による先進的な取組を学ぶ —
市民文教委員会委員長 加藤 幹樹

目的 行政主導ではなく、公民連携により建設された図書館における先進事例の取組を学ぶ。

視察内容 民間資本を活用したオガールプロジェクト（紫波町公民連携基本計画）において、紫波町図書館は平成24年8月に建設された。「知りたい」「学びたい」「遊びたい」をコンセプトに、大人向けのミニトークイベント「夜のとしよかん」、地ビール会社と連携した「ビアフェスト」「図書館を使った調べる学習コンクール」等の図書館の利用を促す様々な取組を実施している。

所感 紫波町図書館は、従来の図書館のイメージを覆す取組をしている。図書館でありながら、館内には心地よい音楽が流れ、飲食ができる読書コーナーやオリジナルグッズの販売も行っている。天井には天井板が貼られておらず、柱も所々むき出しのシンプルな構造であり、空間に開放感をもたらす仕組みになっている。本市も、本を静かに読む場所としての従来の図書館ではなく、紫波町のように市民がもっと足を運びたくなり、幅広い用途で活用できる施設にしていくな必要があると感じた。



紫波町図書館を現地視察

公共空間を活用したウォーカブルなまちづくり
— 官民連携による地域のにぎわい創出と活性化 —
建設委員会委員長 近藤 澄男

目的 官民が連携した「居心地がよく歩きたくなるウォーカブルなまちづくり」の実現に向けた先進的な取組を学ぶ。

視察内容 朝霞市では、令和4年に地元の商店会や自治会、学識者等で構成される官民連携組織「あさかエリアデザイン会議」を立ち上げた。住んでいる人も訪れる人も「みんなが帰りたくなるまち」をコンセプトに、ウォーカブルなまちなかの構築などを方針としたビジョンを策定し、休憩施設の設置や公共空間を活用したイベントを実施することで、人中心の空間づくりを進めている。

所感 朝霞駅周辺は市役所や公園などの公共施設が集中し、日常的に多くの人の往来や滞留があり、人口が増加傾向にある特徴は本市の刈谷駅と似ている。朝霞市はシンボルロードや朝霞の森など活用できるオープンスペースが多く、にぎわいのポテンシャルに優れ、実施されるイベントはそれを生かしたものである。現在、本市でも、カリマチストリートやきたたくる広場などの公共空間を活用したイベントを実施し、官民が連携したウォーカブルなまちづくりを進めていく中では、朝霞市の取組は参考になる事例であった。



公共空間を活用した取組を学ぶ

市とするために

各委員会で先進事例を視察～ ※…掲載した項目

◆福祉産業委員会（10月11日～13日）

- 神奈川県座間市 収集・排出・資源循環のサポート小田急WOOMSの取組について
- ※新潟県三条市 三条市立大学における地場産業・ものづくり産業の活性化に向けた取組について
- 神奈川県横須賀市 農福連携について

三条市立大学における地場産業・ものづくり産業の活性化
— 産学連携による先進的な取組を学ぶ —
福祉産業委員会委員長 深谷 英貴

目的 地域企業と協力し、産学連携による地場産業・ものづくり産業の地域活性化に向けた先進的な取組を学ぶ。

視察内容 三条市では、人口減少の対策として、市内にもものづくり企業が多いことに着目し、令和3年4月に地元企業と連携した工業系の三条市立大学を開校した。教育の特色として、産学連携実習等を行い、地元企業が求める人材を育成している。開校当初より、全国から入学定員を上回る志願者があり、卒業後に、地元企業への就職者が増加することが期待される。

所感 「地場産業・ものづくり産業の活性化」や「人口流失防止」の取組として市長の強い思いで三条市立大学を開校したという経緯には大変驚いた。市長の思いは地元企業に寄り添った事業であり、地元企業もその思いに共感し、産学連携実習を取り入れるなど、様々な協力をしており、地元を活性化するのに非常に有効な手段だと感じた。ものづくりが盛んな本市においても、今後、地元企業と連携し、「ものづくり産業における活性化・人材育成」について積極的に考えていく必要があると感じた。



三条市立大学を現地視察

◆企画総務委員会（10月4日～6日）

- 埼玉県蓮田市 3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化プロジェクト< PLATEAU >を活用した防災の取組について
- 千葉県千葉市 スマートシティ推進の取組について
- ※栃木県宇都宮市 DX推進の取組について

「市民視点」×「行政視点」でDXを推進
— 地域社会全体でDXの実現を目指す —
企画総務委員会委員長 揚張 慎一

目的 外部デジタル人材を任用し、アクションプラン「DX実現タスク」を策定して、全庁的にDXを推進する宇都宮市の事例を学ぶ。

視察内容 宇都宮市は令和5年2月に「うつのみやデジタル共創未来都市ビジョン」とそのアクションプランである「DX実現タスク」を策定し、地域社会を構成する市民、事業者、地域活動団体、行政等の各主体がより良い未来を共創していくための「デジタル活用の基本理念」と各主体が共通の価値観をもって取り組めるよう「デジタル活用の基本方針」を掲げ、地域社会全体でデジタル化やDX推進に取り組んでいる。

所感 宇都宮市はデジタル政策課を新設、外部デジタル人材4名を任用し、DX推進に積極的に取り組んでいる。デジタル政策課が主体的に発信、行動し、市民視点、行政視点の両面から市民が「変わった」を実感できる目標を設定し、5年以内の達成を目指している。情報弱者の存在を認識した上で、現時点では「全てでデジタル」ではなく「デジタルでもできる」の発想で全ての市民へのサービス提供に取り組んでおり、本市でも同じ発想で取り組むことで、DXを活用した市民サービスの迅速な提供が期待できる。



DX推進の取組を学ぶ

委員会

委員会では、議案、請願の審査のほか、

市民文教委員会

- 城町図書館の閉館
- 問 市民へはどのような方法で周知するのか。
- 答 城町図書館には、入り口の目につきやすいところに閉館のお知らせ文を掲示するとともに、中央図書館等の館内への掲示やチラシの設置、市民だより、ホームページ、あいかりなどで周知していく。
- 問 城町図書館が閉館となれば、サービスの低下が懸念されるが、今後、何か考えはあるか。
- 答 12月から開設した電子図書館は、図書館に行くことなく、24時間、スマホやパソコンから電子書籍の検索・貸出し・返却・閲覧ができるものである。今後は、電子書籍の充実を図るなど、サービスのより一層の向上を図っていきたいと考えている。
- その他「スポーツ事業」「母子アプリ」「教員の増員」などがありました。

建設委員会

- 「魅力あふれる公園づくり事業」の取組状況
- 問 委託業者から提案された市場調査の手法はどのようなものか。
- 答 対象とする5つの公園の現状や構想を理解してもらえるような現地説明会を開催した上で、民間事業者と直接の対話により行うサウンディング調査を段階的に3回実施する内容であった。
- 問 事業のスケジュールを見直した理由は何か。
- 答 今後、官民連携による公園整備の可能性を検討するに当たり、現在、実施に向けて調整を進めているサウンディング調査は大変重要なものであると考えていることから、対象とする公園の構想や調査の目的を理解してもらった上で、可能な限り多くの民間事業者と丁寧な対話を進めていくために調査の期間を延長するためである。
- その他「チョイソコかりや」「クリーンサポート刈谷」「刈谷駅周辺のイルミネーション」などがありました。

の動き

主に次のことについて、質問などがありました。

福祉産業委員会

- 発火危険のあるリチウム電池の一般ごみ混入対策
- 問 発火性危険物の一般ごみ混入の現状はどうなっているのか。
- 答 スプレー缶や乾電池、リチウムイオン電池を使用したモバイルバッテリーの混入等があった。本年5月には、リチウムイオン電池の混入が原因と見られるパッカー車の火災が発生した。
- 問 市民への危険物混入に対する啓蒙、正しい分別についての協力依頼はどのように行っているのか。
- 答 市民だよりやホームページで発火性危険物の正しい出し方への協力をお願いするとともに、ホームページでは、モバイルバッテリーによる発火事故の再現映像などを掲載している。発火事故の発生した地区に対して注意喚起を促すチラシを回覧し、再発防止に努めている。
- その他「障害者雇用の促進」「歳末助け合い募金」「介護人材確保事業」などがありました。

企画総務委員会

- ペット同行避難と同伴避難
- 問 ペット同行避難所を拡大していく考えはあるか。
- 答 現在の中学校6校に加え、小学校15校に拡充を予定している。
- 問 同行避難所ではペットをどのような場所で飼養するのか。
- 答 避難所は様々な方を対象にするため、動物が苦手な方や動物アレルギーにより健康を害してしまう方などへ配慮が必要となる。飼養する場所は駐輪場や体育倉庫などを考えている。
- 問 ペット同行・同伴避難の体制づくりについての考えは。
- 答 ペットとの避難体制は、引き続き同行避難所の拡充を図るとともに、車中泊やテント泊など多様な避難方法の普及啓発を行う。同伴避難所については県の動向を注視し、他自治体を参考に検討する。
- その他「一般社団法人刈谷にぎわいオフィス」「あなたが使える制度お知らせサービス」「モバイルトイレの導入」がありました。